

みどりのこえ

春号
2017

長野県環境保全研究所

平成29年(2017年)3月24日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



GPS発信器を装着したニホンジカ



文・写真 泉山 茂之

ニホンジカは、なぜ高山を目指すのか

アルプスの峰々は、今日も変わらず白銀が輝き、険しく虚空を突き刺している。山麓から山々を見上げる時、自身がここに立ち、ここで生きて行けることを、私は幸福に思う。しかし、最近になって、私は戸惑うことがしばしばある。その理由は、山の変化があまりに早いためである。

南アルプスの高山帯と亜高山帯では、1990年代後半からニホンジカの進入が始まり、2000年頃には定着したと考えられる。そして2010年頃までの、わずか10年で希少な高山植物群落のほとんどが失われたのである。多雪地域や高山環境には生息が困難とされてきたニホンジカは、季節的移動型の個体群が分布を拡大し、これまで生息が見られなかった北アルプスにまで進出を始めている。希少な高山植物群落の宝庫である北アルプス高山帯にニホンジカが進出することで、希少な高山植物の消失を招く恐れがある。高山帯の良好な自然環境と貴重な高山植物の保全を行うこ

とは急務なのである。

南アルプスでは、ニホンジカの問題が顕在化してから対策を始めるまでに、かなりの時間がかかり、すでに手遅れになっていた点が多々あることが悔やまれる。ニホンジカの保護管理を効果的に進めるためにも、早急に北アルプス地域のニホンジカ分布域の拡大過程と移動ルートなどの情報が必要である。かりに、北アルプスのかけがえのない高山植物群落を失うことになり、南アルプスと同じ轍を踏むことになれば、信州の自然に関わってきた者として、後世に顔向けすることができない。予測される危機を、回避するために最も重要なことは、今できると考えられる予防の対策を、最大限の努力をもって行うことである。変化し続ける自然とどう向き合うべきか、私たちは重たい課題を突きつけられている。

(いずみやま しげゆき/信州大学山岳科学研究所教授)

Contents

【巻頭言】ニホンジカは、なぜ高山を目指すのか	1	【フィールドノートから】	
【特集】 研究所20周年記念		Overview 2016年の自然環境を振り返る	12
Ⅰ 研究プロジェクト 勢ぞろい	2-4	【みどりのフカヨミ】 迷走台風の動き	13
Ⅱ その他の成果	5	【信州自然ガイド No.2】 小谷村・柵池湿原	14
Ⅲ プロジェクト関連論文リスト	6-9	【こんなことやってるよ!】 飯綱町・だんどりの会	15
所長、歴代部長、スタッフメッセージ	10-11	【読書案内】 信州人虫を食べる	15
		【報告&お知らせ】	16